



ふえにつくすだより Vol.30

堺市立平和と人権資料館報



堺市立平和と人権資料館展示室より
あなたへのメッセージ
～あなたは自分が好きですか?～

常設展示から

平和な社会の実現は、わが国のみならず世界共通の願いです。

本市においては、1983年(昭和58年)に核兵器の完全禁止を強く訴え、非核平和都市宣言を行っています。また、平和と人権資料館においても、原爆被災に関する写真や被災者の遺品、原爆の威力を示す物品などの展示を行い核兵器のない平和な世界の実現を訴えています。

平和ゾーン 実物資料展示

戦時中の生活を物語る遺品など実物を展示し、当時の状況を伝えるとともに、戦争の悲惨さを訴えています。



①体内から摘出された銃弾



②銃弾を受けた千人針



③銃弾を受けた軍事日記(鉛筆付)

戦闘中に銃弾を受け負傷した時のものです。①銃弾は腹に巻いた②千人針と中に入った③軍事日記を貫いて腹部に命中し、その後、摘出されました。(高田信夫さん寄贈)

【③軍事日記から一部抜粋】

「一、兵舎ノ内外ヲ巡察シテ諸物品、保在整頓所在ノ良否、及び火災盗難ノ予防ニ注意シ日夕黙呼後ハ…」
 「二、食事分配ノトキハ食事数ヲ週番下士官ヨリ承知シ定時所要ノ当番ヲ率テ食事受領シ之各班ニ…」
 当時の軍事生活の様子が垣間みられます。

当館への寄贈について

平和と人権資料館では、堺大空襲などに関する資料を収集、保存しています。ご提供いただける資料がございましたらお気軽にお申し出ください。日記など当時の様子を書き残されたものなども歓迎いたします。

平成22年 当館への寄贈

- 坂口七郎さん 「堺空襲をうけた酢のビン」
戦時中の疎開時に自宅の地下に埋めた生活用品。
- 山西道三さん 「焼夷弾の一部(頭部)」
M69集束焼夷弾の頭部(直径37.5mm・高さ70mm)
- その他 図書 11件

平成22年 ビデオ・パネル貸出状況

(平成22年1月から12月末まで)

ビデオ 113団体(参加人数 20,821人)
 パネル 23団体(参加人数 10,859人)

新着 貸出ビデオのご紹介

「しんちゃんのさんりんしゃ」 上映時間24分

てつたにしんいち
 鉄谷伸一ちゃん(当時3歳11カ月)は、三輪車に乗って自宅前で遊んでいるときに被爆し、同日夜に死亡しました。3歳の子供を一人で墓に入れるのはかわいそうだと、父親は、亡骸と三輪車を一緒に自宅の裏庭に埋めました。40年後の1985年(昭和60年)の夏、庭から掘り出された遺骨は墓に埋葬され、三輪車は広島平和記念資料館に寄贈されました。平和と人権資料館にもそのレプリカが展示されています。

この作品は、1945年(昭和20年)8月の広島で起こった実際の話がもとになっています。

あらすじ

伸ちゃんと君ちゃんは大の仲良しです。三輪車の絵本を見ては楽しく遊んでいました。ところが、君ちゃんのお父さんが戦争で死んでからは、遊ばなくなりました。独りぼっちになった伸ちゃんは「三輪車が欲しい」と言ってご飯も食わずに家を出て行きました。

兵隊に行くことになったおじさんが、三輪車を持って来てくれました。伸ちゃんは大喜びで「君ちゃん、三輪車だよ」と。早速、君ちゃんの家に行くと君ちゃんは「いいねえ」と言って、また、仲良く遊び始めました。伸ちゃんは、君ちゃんと三輪車で水の上を走ったり、空を飛んだりする夢を見ました。伸ちゃんの三輪車は、あの日までこんなにも楽しい夢を乗せていました。

8月6日の朝も、二人は遊びに出かけました。ピカッと光り、伸ちゃんの夢は消えてしまいました。

平和と人権資料館では学校や団体等にビデオ(DVD)・パネル・スライド等の貸出を行っています。詳しくはhttp://www.city.sakai.lg.jp/city/info/_jinken/jinken3.htmlをご覧ください。



平成22年 入館者状況



館内アンケートより

- ☆ ストーリー展示のお話がよくできていてよかったです。(10歳代)
- ☆ 遺書を読んで、とても胸が熱くなりました。今は普通にできることが戦時中は何一つ出来なかったことを改めて感じました。(20歳代)
- ☆ 平和ゾーンに展示されている遺書、手紙をみて戦争に向かう人の心情が伝わってきました。ひとつひとつ丁寧に読んでみたいと思いました。また、銃弾を受けた千人針や軍事日記は心を締めつけるものがありました。(30歳代)
- ☆ 戦時中のことが視覚的によくわかり、改めて戦争について学び考える時間をもてました。たくさんの人達が来館して見てほしい資料館だと思いました。(30歳代)
- ☆ 平和ゾーンの展示物を見て、当時の人達の気持ちを考えると、涙がこみあげそうでした。戦争はよくないです。子を持つ親として改めて思いました。(40歳代)
- ☆ 戦争の展示を見て心が痛みました。戦争はあってはいけなく、風化させてはいけなくと思います。しっかり伝えていきます。(50歳代)
- ☆ ジオラマファンタビューを見て、涙があふれて困りました。戦争のむごさが何とも言えません。(60歳代)

平和と人権資料館では年に1回特別展を開催しています。

今回の特別展では、フォトジャーナリストの渋谷敦志さんと安田菜津紀さんがそれぞれバングラデシュとフィリピンで撮影した子どもたちの写真展「国境なき子どもたち写真展 共に成長するために～バングラデシュ・フィリピンの子どもたち～」を開催しました。

児童労働、路上生活、薬物、売春、ゴミ山、災害などさまざまな問題に囲まれて、犯罪や死の影と隣り合わせで生き抜く子どもたちの写真から、世界の現状を知り、グローバルな視点から平和や人権の問題について、今、私たちができることについて考えていただきました。

平和と人権資料館（フェニックス・ミュージアム）特別展

国境なき子どもたち写真展

共に成長するために

～バングラデシュ・フィリピンの子どもたち～

2011年（平成23年）2月16日～25日

教育文化センター（ソフィア・堺）小ギャラリー



「僕らをつなぐフィリピンの歌声」 ©安田菜津紀/KnK



「バングラデシュで生きぬく子どもたち」 ©渋谷敦志/KnK



認定NPO法人国境なき子どもたち (KnK)

国境なき子どもたち (KnK) は開発途上にある国々のストリートチルドレンや人身売買の被害に遭った子ども、大規模自然災害の被災児など、恵まれない青少年を支援するNGOです。日本と諸外国の子どもたちがお互いの理解を深め、友情を育み、共に成長していくことを目的に1997年（平成9年）よりアジアの国々で活動を展開しています。

URL <http://www.knk.or.jp>

(来場者数)	
写真展	934人
ギャラリートーク	143人
映画上映会	130人

来場者の声

- ・子どもたちの笑顔はどこにいても普遍のものであり、それを大人や世界が壊すことのない世界になって欲しいです。
- ・貧困の実状を見ることができ、考えるきっかけとなりました。
- ・厳しい環境の中で生きていかなければならない子どもたちにも笑顔があることにホッとしました。
- ・大きすぎる問題に対し、まず自分ができることを真剣にやっていくことが一歩だと思いました。
- ・フォトジャーナリストお二人の児童労働や社会状況を伝えようとする熱意が伝わってきました。
- ・実際に現地で感じたことをご本人の言葉で多くの写真とともに聞けてよかったです。

ギャラリートークと映画上映会を開催しました

ギャラリートーク
「写真家の視線
子どもたちの眼差し」

2月19日(土)
堺市教育文化センター（ソフィア・堺）
研修室1・2

フォトジャーナリストの渋谷敦志さんと安田菜津紀さんによるギャラリートークが行われました。二人の共通の知人今井紀明さんによる進行でフォトジャーナリストが見たバングラデシュとフィリピンの子どもたちの生活の様子、児童労働の実状など、臨場感あふれるお話を聞くことができました。



映画上映会「マリアのへそ」

2月19日(土)
堺市教育文化センター（ソフィア・堺）
研修室1・2

監督/脚本：野澤和之
フィリピン、マニラのストリートチルドレン、マリア（6才）の家族との絆を描く心温まる物語。



「マリアのへそ」は堺市人権推進課でDVDの貸出を行っています。興味のある方は是非ご覧ください。
お問合せ：堺市人権推進課（072-228-7420）
http://www.city.sakai.lg.jp/city/info/_jinkenbu/gakusyu_hei.html

「ともに生きる地球市民」～ミレニアム開発目標～

2000年(平成12年)9月ニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットに参加した147の国家元首を含む189の加盟国は、21世紀の国際社会の目標として国連ミレニアム宣言を採択しました。

このミレニアム宣言は、平和と安全、開発と貧困、環境、人権とグッド・ガバナンス(良い統治)、アフリカの特別なニーズなどを課題として掲げ、21世紀の国連の役割に関する方向性を提示しました。そして、国連ミレニアム宣言と1990年代に開催された主要な国際会議やサミットで採択された国際開発目標を統合し、一つの共通の枠組みとしてまとめられたのがミレニアム開発目標(Millennium Development Goals: MDGs)です。ミレニアム開発目標についてのパネルを展示し、その取り組みを紹介しました。



「目標1. 極度の貧困と飢餓の撲滅」



「目標2. 普遍的初等教育の達成
目標3. ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上」



「目標4. 幼児死亡率の削減
目標5. 妊産婦の健康の改善」



「堺大空襲
～体験画と記録写真を通して～」
堺空襲体験画や当時の記録写真を展示。



「原爆展～広島・長崎の記録～」
広島・長崎の原爆被害の写真を展示。



「守ろう!子どもの人権
～児童虐待を防ぐために～」
児童虐待防止「オレンジリボン」パネルを展示。



「第2回自由都市・堺 平和貢献賞授賞式」
受賞者の活動を紹介するパネルを展示。



「低炭素都市「クールシティ・堺」の実現」
堺市で取り組まれている太陽光発電や二酸化炭素排出量削減に向けた取り組みを紹介するパネルや模型を展示。

企画展示コーナーでは、平和・人権・環境に関する問題について、2～3カ月ごとにさまざまな展示を行っています。

詳しくは
http://www.city.sakai.lg.jp/city/info/_jinken/jinken2_4.html
をご覧ください。

第2回自由都市・堺 平和貢献賞授賞式を開催



日時
2010年(平成22年)10月28日(木)
14:00～16:00

場所
堺市立勤労者総合福祉センター
(サンスクエア堺) サンスクエアホール

アジア・太平洋地域の平和に貢献された方々を顕彰する「自由都市・堺 平和貢献賞」の第2回授賞式が開催され、ソーシャルワーカーの社会福祉法人「こころの家族」理事長、田内基さん(大賞)、KAFIN(川口フィリピン人会)代表の長瀬アガリンさん(奨励賞)、アフガン孤児支援 ラーラ会(奨励賞)代表の柄子眞弓さんが出席し、竹山修身市長から記念の賞状と盾が贈られました。授賞式後には、ヴィルベル弦楽四重奏による平和コンサート、田内さんの記念講演も行われ、会場には300人をこえる市民の方々が来場されました。



授賞式で竹山市長は、「本市は、中世、国内外の都市と積極的に交流し、日本で最も平和な都市として世界にも知られ、平和と人権尊重の精神を象徴する茶の湯の文化を築いた。平和を基礎として発展した歴史と文化を有する本市から、賞を通じ、平和と人権の尊さを発信し、国際平和の実現に貢献していきたい。」と述べました。



田内 基さん(大賞)

田内さんは、「平和は人間の幸福の基礎です。人間の幸福を願い、堺市からはじまった「故郷の家」づくりは、各都市に広がりました。「故郷の家」は、市民が作り、発展させた市民福祉のモデルです。今回の受賞は、私を勇気づけるとともに、どんなにつらいことがあっても中断するなという励ましと受けとめています。」と語りました。

長瀬さんは、「弱い立場にある在日フィリピン人女性たちがお互いに助け合えるよう、組織化とエンパワメントを通じ、本人とその家族の権利を保護し、擁護できるように支援していきたいと考えています。」



長瀬アガリンさん(奨励賞)



アフガン孤児支援 ラーラ会(奨励賞)代表 柄子 眞弓さん

柄子さんは、「『見た者』、『聞いた者』の責任を果そうと、ごく普通の人たちが集まって思いを一つに力を合わせれば、世界平和への再構築につながる働きができると評価されたことに大きな喜びを感じます。これからも、小さなことでも自分たちにできることから協力するという会の考え方を実行していきます。」とそれぞれ話しました。

ヒロシマ原爆展を開催します!

平和と人権資料館では、広島市と共催で「ヒロシマ原爆展」を開催します。広島平和記念資料館所蔵の被爆資料(約25点)や原爆被災の写真パネル(約50枚)を展示します。この機会に、貴重な被爆資料などをご覧いただき、戦争の悲惨さと核兵器の恐ろしさ、平和の尊さ、そして命の大切さについて考えていただきたいと思います。

日時：平成23年8月4日(木)～10日(水)(8日(月)は休館)

場所：堺市教育文化センター(ソフィア・堺)大ギャラリー



8時15分で止まった時計
(川越明人さん寄贈)

トピックス

～核兵器を巡る国際情勢～

核兵器を巡る国際情勢は、戦後、厳しい情勢が続き、東西冷戦終了後もなかなか変わりませんでした。しかし、オバマ米国大統領就任の頃から世界の情勢に変化が現れはじめ、2009年(平成21年)4月プラハで、オバマ大統領が歴代米国大統領としては初めて「核兵器のない世界」を追求すると明言すると、世界に共感が広がりました。このような世界の潮流の中、2010年(平成22年)4月に核セキュリティ・サミットが、2010年(平成22年)5月にNPT(核拡散防止条約)運用検討会議が開催されるなどNPT発効から40年の節目に当たる2010年(平成22年)は、「核兵器のない世界」に向けて新たな一歩が踏み出されました。

核セキュリティ・サミット

世界の首脳陣が核テロ対策について話し合う「核セキュリティ・サミット」が2010年(平成22年)4月12～13日、米国ワシントンで開催されました。核テロリズムの脅威に対処するため、オバマ大統領の提案により開催されたこのサミットは、47カ国3国際機関が参加(37カ国より首脳参加)。NPT(核拡散防止条約)非締約国であるインド、パキスタン及びイスラエルも参加しました。

参加国首脳は、サミットにおいて、核テロ対策を強化するために具体的な措置をとる必要性について一致。今後の取組むべき措置などについて記したコミュニケ及び作業計画を採択しました。次回のサミットは、2012年(平成24年)韓国で開催されます。



NPT(核拡散防止条約)運用検討会議

世界の核軍縮・不拡散、原子力の平和的利用について話し合う「NPT運用検討会議」が2010年(平成22年)5月、米ニューヨークの国連本部で開かれ、将来に向けた「行動計画」を含む最終文書を全会一致により採択して閉会しました。NPTにおける合意の成立は実に10年ぶりであり、核兵器のない世界の実現に向けてとても大きな成果となりました。会議期間中には、多くの日本の被爆者がニューヨークを訪れ、世界中の人々に平和の尊さを訴えました。

米国が未臨界核実験を実施

2010年(平成22年)9月15日に米国が核爆発を伴わない未臨界核実験を実施しました。これに対し、非核平和宣言都市である堺市はオバマ大統領宛に「核廃絶への国際世論が高まっている中で極めて遺憾であり、核実験の中止を強く要望する。」との抗議文を送付しました。

私たちのまち堺から
人権文化の
を咲かせよう



堺市立平和と人権資料館

〒599-8273 堺市中区深井清水町1426(ソフィア・堺内)

TEL 072-270-8150 FAX 072-270-8159

URL http://www.city.sakai.lg.jp/city/info/_jinken/

2011年(平成23年)3月

堺市行政資料番号 1-D1-10-0406